

2020年1月6日

東急グループ代表 野本弘文・東急(株)取締役社長 高橋和夫
年頭あいさつ【要旨】

東急グループ

1. 東急グループ代表 野本弘文 年頭あいさつ（東急グループ各社トップに対する年頭あいさつ）

(1)日 時 2020年1月6日(月) 9時10分

(2)要 旨

グループ各社で年末年始に大きな事故もなく、無事に新年を迎えられたことを喜びたいと思います。

昨年は世の中では、令和時代の幕開け、これに関わる一連の行事、ラグビーワールドカップ、消費税増税、自然災害などのさまざまなことが起こり、東急グループにおいても、77年ぶりとなる東京急行電鉄の社名変更と鉄道部門の独立、本拠地渋谷においては、渋谷ソラスタ、渋谷スクランブルスクエア、渋谷フクラスといった話題の大型施設が開業するなど、大変忙しい年となりました。

今年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催され、渋谷にも世界中から多くの人々が訪れ、世界の話の都市になると考えています。こうしたチャンスは是非事業に活かしてください。

また、マラソンと競歩が札幌で開催されることで、北海道も大いに世界から注目されることとなりますが、北海道7空港の運営者の一員となった東急グループにとっても良い機会だと思います。じょうてつ、網走交通をはじめ、北海道で営業をしているグループ各社においても、是非この機会を活かしてください。

8月の観光列車「THE ROYAL EXPRESS」運行も大いに話題になるものと思います。北海道における東急グループのプレゼンスを、この機会に高めてください。

なお、今年は五島慶太翁の生誕の地である長野県青木村に、慶太翁の功績を顕彰する記念館として、「五島慶太未来創造館」が4月18日に開館します。機会があれば、是非訪ねて、改めて五島慶太翁の思いや、考え方に触れてください。

年初のこの機会に、経営者として最も大事なこと、常に意識してほしいことを今一度伝えたいと思います。

1つ目は、事業のビジョン・目的を示し、共感させること。2つ目は正しい判断をし、決断し実行すること。3つ目はリスクに対する対応力を向上させること。この3つが特に重要と思います。

この中で正しい判断をすることが、最も大切であると考えており、そのためには、何が本来あるべき姿か、目的は何か、その原点を見失わないことが重要なことと思います。

次に、正しいことを求める判断のものさしを持つべく、倫理観や道徳観、公正、正義といった人間としての道理に基づいた考え方を持つことはもちろん、判断基準のレベルを高めていくことが必要です。そのためにも、常日頃から、些細なことにも気を込め、有意注意を習慣化させることが大切です。

リスクに対する対応にもこうした経験が生かされ、正しい判断に導くものと思います。

昨今、地球温暖化の影響もあり、気候変動リスクが顕在化しています。昨年10月の台風19号では、東急グループも被害を受けました。これからもさまざまな想定外が起きる可能性の方が強くなってきています。風水害だけでなく巨大地震もいつ起きるかわからないという時代に、想像力を常に高め、正しい判断をすることを意識してください。

五島慶太翁も判断をするときには何を基準にするかについて、「世の中は『新旧一如』、物事を判断するケジメは『真』・『善』・『美』である」と言っています。この言葉を常日頃から胸に留めておくことで正しい判断ができるということにも繋がっていくと思います。皆さんにも新年にあたり今一度意識をしてください。

2. 東急(株)取締役社長 高橋和夫 年頭あいさつ (東急(株)社員に対する年頭メッセージ)

(1)日 時 2020年1月6日(月) 10時10分

(2)要 旨

各事業の第一線で勤務している現場の皆さんが、年末年始も変わらず取り組んでいただいたおかげで、大きな事故もなく、こうして新年を迎えられたことに感謝したいと思います。

「安全・安心」は全ての当社事業の源泉であり、お客さまが東急ブランドに寄せる「信頼」のもとです。すべての事業、会社の活動において「安全・安心」を基に遂行すること、コンプライアンスを遵守することが、企業価値および東急ブランドを維持するためには不可欠です。

昨年は台風などの自然災害により当社グループにも甚大な被害・影響が発生しました。沿線エリアでは、多摩川の氾濫などもありました。近年、これまでの常識では通用しない災害が頻発していますが、本年もまた必ず起こるものと考え、そのための「備え」や「守り」の重要性を再認識してほしいと思います。

一方で、中期3か年経営計画の2年目を迎え、業績面でも今年度は計画数値をほぼ達成できる見通しです。鉄道事業の分社化、渋谷スクランブルスクエアや南町田グランベリーパークといった今後の成長に大きく寄与することが期待される大型施設が、予定どおり開業しました。

本年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。当社にとっても、中期経営計画の最終年度です。目標利益が過去最高の水準ということもあり、文字通り“飛躍”が求められる年にもなります。足元における事業目標をしっかりと達成することに加え、長期経営構想にも掲げた、「東急ならではの社会価値提供」「世界が憧れる街づくり」とは何かについても、皆さん一人一人が考えてみてください。

本年は、昨年のような大規模プロジェクトの開業が控えているわけではありませんが、大型施設は開業してからがスタートです。

渋谷スクランブルスクエアであれば、コンセプトは「最旬」です。常に新しいものを提供し続けて、人々を楽しませ、驚かせていけるかが大切です。南町田グランベリーパークにおいても、今年は高速道路が整備され一段と空港からのアクセスが良くなります。来訪者の方々がどこからいらしているのかを分析し、さらに広域な集客につとめ、盤石な営業基盤を築いてください。

そのほか、各事業部門、一般管理部門において、さまざま課題があると思いますので、遺漏のないよう事業推進をお願いします。

「グローバル化」、「デジタル化」、「ソーシャル化」が進行する世界の潮流の真ただ中に身を置いているのだという高い意識を常に持ちながら「将来のありたい姿をしっかりと見据え、それに向け足元の事業を着実に進めていく」ことが何よりも大事であることを、個人・組織として共通認識としながら、本年も元氣よく事業を進めていきましょう。

以 上